

## <要旨>

近年頻発する自然災害によって、交通インフラは大きな被害を受けている。その中でも被災前の時点で利用が低迷し赤字となっていた路線では、莫大な費用を投入し復旧させる事に関して事業者が難色を示すケースが増えてきており、沿線自治体との協議が行われている。

本研究では令和二年七月豪雨により被災した JR 肥薩線を事例とし、被災鉄道の現状と課題について検討する。関係機関に対し実施したヒアリング調査では、復旧費の負担に関する問題に加え、復旧後のランニングコストの地元負担に関する懸念もある事が明らかになった。また鉄道の長期不通によって被災地の公共交通政策や地域振興に影響が出ている事も判明した。本研究ではこれら課題について分析し、肥薩線ひいては全国の被災鉄道に存在する諸課題をどのように解決すべきかについて、他線区の実例を踏まえつつ提言を行うものである。